

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議（平成30年度第3回）結果

- 1 日 時 平成30年11月22日（木）13：15～14：45
- 2 場 所 県庁第2庁舎4階 第34会議室
- 3 出席者 企画推進会議委員、事務局等（資料名簿のとおり）
- 4 次 第

- (1) 委員長あいさつ
- (2) 協議事項
第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について
- (3) その他
今後の日程について



5 内 容

■協議事項 第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について

(1) 資料1：第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果

資料に基づき事務局から開催結果の概要と大会の成果について説明。

(2) 資料2：企画推進会議委員の御意見・御感想

委員からの御意見等について、状況や事務局の考え方等を説明。

- ・当日高校生ブースの打ち合わせがなかったことは、今後ないように努める。
- ・手荷物検査に時間がかかるということは、警備上の問題もあり、警察さんと相談してできるところは改善したい。
- ・郷土芸能や手話カフェのスペースが狭かったことは、次回新しい会場でいただいた御意見を踏まえて検討していきたい。
- ・販売ブース参加者も手話ができるように事前学習をして参加すべきだった、またホワイトボードなどを用意して読み書きができる準備をとということについては、大会関係者に簡単な手話表現のチラシを事前に配布する、また会場内に情報保障用のホワイトボードを準備するなど対応していきたい。
- ・高校生ブース出店者の駐車スペースの事前告知や駐車許可証の事前配布があった方がよかったということは、今後丁寧に案内をしたい。
- ・高校生からゲストパフォーマーきいろぐみを見たかったという声があったということは、閉会式のためゲスト演技中に高校生を舞台裏に案内したため。ゲストパフォーマンスの後に休憩時間を設けてここで生徒を集めるなど何か工夫をして対応したい。
- ・司会の中野さんが非常によかった、来年も司会してもらえば年々良くなるのではという御意見については、色々な方にお話を聞くと中野さんは良かったのでないかという意見が多かったようで、御意見を参考にして検討していきたい。
- ・演技司会はこれまで早瀬さんと聞こえる女性でしているが、逆に聞こえない女性と聞こえる男性はどうか、女性の審査員長はどうかということは、そのような観点の御意見もあるかと思う。ただ、来年からと急ぐつもりではないということで、中長期的な課題であり、具体的な方のイメージがないところもあり、皆さんの御意見を聞きながら考えていきたい。
- ・高校生の伝統芸能発表をステージ上でできる工夫がないかということは、事前に御意見もいただいていたが、出来なかったところもあり、今後、大会内容や運営スケジュールなどと併せて検討していきたい。
- ・大会グッズのタオルに学校名入りのものは記念になるから入れてほしいと思うという御意見については、業者との話し合いになるが、売れ残ったら買い取りをすることもあり、事務局とし

ては売れ筋のものを入れたいという思いもあり、全体の中で考えていきたい。

- ・字幕はあるが音声がない演技の学校があり、盲の方に音声ガイドはあったかということは、希望される方には周波数を合わせて音声ガイドが聞けるラジオを貸し出しすることで全ての演技が音声ガイドで聴くことができるようにしていた。
- ・交流会ゲストの盛り上がりについての御意見については、その場面では自由に賑やかになってしまい、ゲストパフォーマーを見るという雰囲気にならず、ゲストパフォーマーの方もやりにくかったのかなと反省している。学校から高校生同士の交流時間がもっとほしいという御意見もあり、来年度は交流を中心にしてゲスト枠は無くす方向で考えてもいいのかなと考えている。
- ・交流会のテーブルの位置によって料理がスムーズに取れない学校もあり、事前にテーブルに置いてもいいのではということ、参加人数や会場レイアウトと併せて検討させていただきたい。
- ・大会期日は早めに決めたら参加校も増加につながるだろうということは、我々もなるべく早く決まるように努力しているが、関係機関との調整等もあり、そのへんも含め来年度もなるべく早く決めるよう努力していきたい。
- ・小中学校への案内については、大会チラシ等を県内の全小学校中学校に市町村教育委員会経由で配布したというところ。

【委員からの御意見等】

《交流会について》

○大杉委員

第1回目のときから交流会のゲストは、参加者が全く見ていない、見たり見なかったり、まちな感じを受けている。ゲストの演技が魅力ないというのではなく、交流会の流れの中で、隣同士で話をしていたりしゲストを見る余裕がないなど理由はあると思う。やはり交流会ですので、高校生同士が交流する時間を増やしていただくのがいいと思う。

→（委員長）先ほど事務局から交流に力を入れ時間を取ることをさせていただけたらという説明をさせていただいたところ。ではその方向でいきますか。

○三王寺委員

交流会のテーブル席の札は番号ではなく学校名にしてどこの学校の参加者がいるのか分かるようにすると交流しやすいと思う。

→（事務局）テーブル札は学校名を表示するようにしたい。

《高校生ボランティアについて》

○田中正士委員

高校生ボランティアが昨年に比べて多くなり非常にいい傾向だが、学校の偏りがあり、西部開催であれば、出来ればもっと西部の高校からまんべんなくボランティアに出て来られるような呼びかけや仕組みができないかなと思った。東・中・西地区にそれぞれ校長会があるので地区の校長会を通じてボランティア参加を呼び掛けるなどし、開催地区の高校生が来ることになればよりいいと思う。大会の感動を他の高校生等にも感じてほしい。小中学校の生徒が大会に来るようなことになれば、もっと広がると思う。例えば中学校のボランティアがあってもいいかなと思う。

→（事務局）次年度以降は開催地区の校長会等でボランティア参加の案内等も考えてみたい。

《開催日程について》

○国広委員

早く開催期日を決めてほしいが、関係機関との調整に時間を要するという答えしかもらえない。高校生が早く準備ができ、大会期日に向けて練習することにより聞こえない人や（聴覚障害者）協会や手話サークルなど関係者とのつながりが深くなり、広がっていくと思う。大会閉会式のときに来年の開催期日が発表でき、それに向けてみんなで頑張りましょうというようになればいいと思う。関係機関との調整は難航し、事務局大変でしょうが、よろしく願います。

→（委員長）同様な意見は昨年度の実行委員会でもいただいており、それは承知しており、なお努力する。

《大会内容について》

○佐伯委員

個人的に本当に素晴らしい発表だったと非常に感動した。観客も非常に多く賑わっており、どんどん手話の輪が広がっていることを感じた。

(3) 資料3：アンケート結果（来場者・引率・生徒）

《聴覚障がい者への配慮等について》

○大杉委員

参加者から約300人の方から回答・意見をいただいたが、アンケート回答を書かれていない人は、意見がなかったのか、あまり良くなかったという意見をお持ちなのか、何かの理由で書かれなかったのか、ということも頭に入れて全体を分析する必要もあると思う。情報保障についても全体的に良かったという説明があったが、聴覚障がいの有の6名のうち3名は厳しめの意見を書かれており、聴覚障がいのある方に個々に聞いていけば、積極的な意見が出てくるのではないかと思う。聴覚障がい者協会、県サ連、全通研など関係者を含めて聴覚障がい者への配慮がどうだったのかということ把握することやもっとレベルを高めていかないといけないと感じた。

→（事務局）情報保障について鳥取県聴覚障害者協会等を通じて御意見を聞いてみて、情報保障コーディネート会議などで諮っていきたい。

《スケジュールについて》

○大杉委員

アンケート回答の内容を受け止めてきちんと対応していく必要があると思う。先に話題になったが、高校生同士の交流の時間も課題として考えていかなければと感じている。

→（事務局）本大会と交流会がタイトなスケジュールであり、ゆとりのある時間・運営ができるよう見直ししたい。

○三王寺委員

昼休憩時間が50分あったが、宮様のご入場5分前に入らないといけないということがプログラムに書いてなく、40分にギリギリに来ると、先ほどの反省にあったように、途中で次々で入って来られるということがあった。

ひまわり分校の生徒達が時間ギリギリで帰ってきてお昼も食べれていなかったということもあり、

正味40分では、お昼を食べる、色々なブースを回するにはちょっと短いかなと感じた。

→（事務局）来年度は昼休憩時間をなるべくとるように考えたい。もう少し余裕のある全体スケジュールにしたいと思っている。クローズ時間をお知らせした方が来場者は動きやすく検討課題。

《要約筆記関係者の委員加入について》

○森原委員

情報保障アンケートの中に、字幕表示に関するものがいくつかあるので、企画推進会議や情報保障コーディネートチーム会議に、要約筆記の関係者にも加わっていただくといいのではと思う。

→（事務局）字幕表示という具体的な配慮を再度確認し、表示が見えないだけだったら工夫は必要だが、検討させていただきたい。

《アンケート集計について》

○国広委員

アンケートに属性等の記載があると理解しやすい。県内か県外で感じ方が違うと思うし、また聴覚障がい者か聞こえる人かが分かれば分析ももっと細かくできると思う。

また、言葉遣いは違うが意味としては同じものはまとめてしまうなど、アンケート結果は、もう少し見やすい形を出していただければ理解しやすい。

→（事務局）属性を分けるなど、改善していきたい。

《出場者の手話表現について》

○戸羽委員

大会も5回目になり、パフォーマンス後のインタビューの際に、生徒自身で手話表現をされるケースが増えたことに感動した。先々、インタビューまで全てを出場校でスムーズに表現できればいいなと思っている。

《情報提供：交流の広がり等》

○三王寺委員

沖縄の真和志高校を卒業した元部長さんも来ておられ、先輩が後輩の活躍をわざわざ見に来るという場面もあり、この大会が続いている意味もあると思った。

また、ひまわり分校は近くの福生中学校と毎年交流させていただいている。福生中学校で交流した生徒が今年米子東に入り、憧れていた手話パフォーマンス甲子園に参加して嬉しいと本人は言い、ひまわり分校の中学生は、（以前交流をした、元福生中学校の米子東の生徒の）姿を見つけて、また嬉しいというようなことがあった。それをまた学校の発表会等で話題にして演技で皆さんに伝えるというようなこともあり、様々な形や出来事で普及していると感じている。

《出場チーム数について》

○戸羽委員

出場20チームは多く、タイムスケジュールには無理があったのではないかなと思うので、規模を少し縮小し出場チームを縮小することを前向きに検討することも一つかなと個人的には思う。時間的にもっとゆとりを持てれば楽しめる内容になると思う。

○三王寺委員

毎年6月中旬の全国の聾学校長会での手話パフォーマンス甲子園を案内しており、毎年、聞かれることがある。本年度は広島南特別支援学校が参加され、松江聾学校は学校行事で生徒全員を連れて大会に来られた。浜田聾学校の校長先生も見に来られ、とてもいい大会なのでぜひ参加させてやりたいと言って帰られた。

鳥取聾学校も来年こそはと思うが、参加エントリーが増え、逆に出場できる学校は減るとなると、激戦で頑張らないとまずいなというのが個人的な感想。ただそういった刺激をし合って高め合うことも大事なことで、前向きに考えていきたいと思っている。

○国広委員

大会スケジュールは、開会式は短く、昼休憩を長くし、ゲストパフォーマンスも短くあるいは無しにするなどを考えていけば20チームという数で来年度もできるような気もするが、チーム数を少なくすればより大会スケジュールにゆとりがあり、アンケートにあった色々な意見も少しずつ盛り込めると思う。

三王寺先生の紹介のように、(交流の広がり等)があると、それが鳥取県だけでなく他県でも高まっていると思いき、そうすると20チームは保持したい、でも今の状態だと厳しいかな、と色々考えた。

→(事務局)20チームが多いというのは、時間的余裕がないということと同じ話だと思う。これについても検討していきたい。

→(委員長)複数の委員がおられ、複数の異なる意見が出てくるのも当然で、この会議ではこういう御意見があったということで承ります。

■報告事項

(1) 資料4：全国高校生手話パフォーマンス甲子園に係る今後の日程について)

来年度は秋(9月～10月)に鳥取市での開催を想定し、今後実行委員会総会で決定する予定等を説明。

○森原委員

持ち回りでいくと次は中部の順番だが。

→(事務局)順番でいくと来年が倉吉、再来年が鳥取になるが、再来年はとりぎん文化会館が改修工事で使えないという事情があり、順番を入れ替え、準備を進めているもの。